

聞き取り調査

抑留中の労苦記録

山梨県 加藤 幸 正

(一) 出生から入隊まで

- ① どこで出生……山梨県南都留郡足和田村長浜
- ② いつ出生……大正七（一九一八）年五月十日
- ③ 学校……茨城県立太田中学校

(二) ソ連軍侵攻前

- ① いつ入隊……(1)昭和十五（一九四〇）年一月十三

日 召集

(2)昭和十八年八月十四日 召集

- ② 入隊場所……(1)東京都世田谷 陸軍自動車隊

③ 駐屯地……(1)上海警備隊司令部

(2)東京都赤羽 工兵第一連隊

(2)満州フルルギ、チチハル、ハルビ

ン、孫呉

(三) ソ連軍侵攻をどこで受けた

- ① いつ……昭和二十年八月九日
- ② どこで……孫呉工兵第一連隊
- ③ どんな状況で……東風山において陣地構築作業中

(四) 終戦

① 詔勅……昭和二十年八月十九日

② 感想……自決を覚悟

③ どう終戦したか……武装解除

④ 武装解除から収容所入まで……武装解除後、孫呉

野砲隊に収容

(五) シベリア抑留地への移送

① いつ頃……昭和二十年九月八日

② この地点からどこへ送られた……孫呉からブラ

ゴエシチェンスク

何日くらい……徒歩二日、貨車一日。計三日。

③ 第一次入ソ場所……ブラゴエシチェンスク(黒河

経由)

いつ……昭和二十年九月十一日

(六) 抑留地の生活

① 第一次収容所どこ……スタベルフ、ドック

収容人員……スタベルフ 四百人

ドック 六百人

② 生活の様子

住まい……工場住居を改造したもの

食事……黒パン、穀物スープ、野菜(ジャガイ

モ)

仕事……スタベルフ造船、ドック製材

ノルマ……敵守(一〇〇%)

衣服……旧軍の物のみ 入浴……なし

シラミ……多発 南京虫等……多発

伝染病……発疹チフス

③ 作業の状況

グループ……グループごとに一〇〇%要求

④ 給与……最悪

(七) 労役

① 収容人員……スタベルフ 四百人

ドック 六百人

宿舎……古い工場住宅を改造した二段式の板張り

② 冬最低温度……零下四〇度

冬はどうして生活したか……三スナメにより作業

労役が一つに止まらないときはどうしたか……交

代により人員を確保した

③ 労役の時間……1 八時～五時

2 五時～十二時

3 十二時～五時

内容……製粉工場、製材工場、造船工場

④ 労役に堪えられない者はどうされたか……室内に

おいて休養

⑤ 健康管理は……全く取り上げてない

⑥ 常日頃健康を保つ上で役に立つことは……自ら注意する以外なし

⑦ 衣服について扱われたことは……着の身着のままであった

(八) 抑留者の統制管理

① 労役につく基準……なし

② 労役免除……なし

③ 健康管理……なし

④ 点呼・作業場への出入……厳重

⑤ 着衣・衣服……着の身着のまま

⑥ 食事の状況……最悪

⑦ 休日……なし

⑧ 収容所施設、構造……古民家の改造、板張り二段

⑨ 洗脳教育……夜毎、一カ所に集合、数時間あり

⑩ 収容所生活全般……朝鮮系との対立あり、非常に面倒であった

⑪ 懲罰……あり。途中で行方不明者あり

(九) 抑留中の生活と極限状態

① 乗りこえてきた信念……内地帰国を夢見て

② 生死の境、死に直面したときの感想……自暴自棄

③ 心身を支えた工夫……忍耐

(十) 帰還

① ダモイをいつ、どこで聞いたか……昭和二十二年

十一月中旬、スタベルフラージュル

② 集結地……ナホトカ

③ 乗船名……明優丸

④ 船内生活……名簿作り。不眠不休

⑤ 上陸地……舞鶴

⑥ 収容期間……昭和二十年九月—二十三年五月

(十一) 帰国後の生活

日本も食糧不足、暫く職業もなく、困難な生活であった。

(十二) 最後に子孫や国民に言い遺したいこと

戦争の絶無
平和で家庭円満